

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:23-24.

部署訪問を通じた新人看護職員への教育的支援の現状と方向性

植山 さゆり, 谷口 亜紀子, 黒崎 明子, 原口 眞紀子

## 部署訪問を通じた新人看護職員への教育的支援の現状と方向性

○植山さゆり<sup>1)</sup> 谷口亜紀子<sup>1)</sup> 黒崎明子<sup>2)</sup> 原口眞紀子<sup>2)</sup>

1) 旭川医科大学病院 看護職キャリア支援教育担当

2) 旭川医科大学病院 看護部

**【目的】**2017年度から専従教育担当看護師長による部署訪問を開始した。新人看護職員(以下新人とする)の看護実践場面に同行後、新人に直接フィードバック(以下FBとする)し、同内容を部署に報告している。看護実践場面のFB内容を分析し、教育的支援の現状把握と今後の方向性を明らかにする。

### 【方法】

期間:2018年5月～同年12月

対象:2018年採用の新人78名中70名のうち、専従教育担当看護師長が新人の看護実践場面同行後、FBした内容97件

訪問スケジュール:1部署1～2週間の訪問期間とし、18部署を約4～5カ月ごと訪問

分析方法:FB内容を実践できていた点、強化すべき点に分けコード化する。その後、厚生労働省が示す臨床実践能力の構造の看護技術を支える要素である「医療安全の確保」「患者及び家族への説明と助言」「的確な看護判断と適切な看護技術の提供」の三要素、さらに三要素の各詳細項目をコード分類し、コード件数は単純集計する。

**【倫理的配慮】**研究の趣旨と方法を文書で説明し新人には拒否機会を保障した。個人が特定できる内容は記載せず、データ管理は十分配慮する。本研究は研究者所属の大学倫理委員会の承認後実施した。

**【結果】**コード数は256件。実践できていた点は、「医療安全の確保」では、タイムリーな先輩への報告19、適切なタイミングでの手指消毒14、フルネーム確認の徹底12、「患者及び家族への説明と助言」では、患者の理解に合わせケアの必要性、内容をわかりやすく説明29、「的確な看護判断と適切な看護技術の提供」では、ケアの必要性の基となる患者の観察・情報収集・アセスメント20、は件数が多かった。強化すべき点は「医療安全の確保」では、声出し指差し確認8、点滴時の酒精綿での確実な消毒5、曖昧・抽象的・小さな声での報告ではなく正確に内容を報告4、「患者及び家族への説明と助言」では患者への十分な説明・適切な言葉遣い・態度5、「的確な看護判断と適切な看護技術の提供」では手順に沿った看護技術の提供5、は件数が多かった。中でも適切なタイミングでの手指消毒31、が最も件数が多かった。

**【考察】**確認行為、感染予防である医療安全の視点は、実践できていた点も多くあったが同時に主に強化すべき内容でもあった。今後は医療安全の視点を踏まえ実践場面における新人の教育的支援の継続、また院内研修での教育ニーズへの活用が必要と考える。

## 目的

2017年度から専従教育担当看護師長による部署訪問を開始した。新人看護職員の看護実践場面に同行後、新人看護職員に直接フィードバックし、同内容を部署に報告している。看護実践場面のフィードバックを通し教育的支援の現状把握と今後の方向性を明らかにする。

## 方法

期間：2018年5月～2018年12月

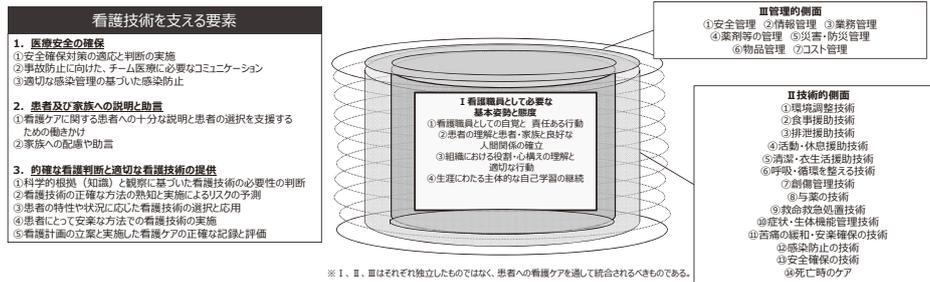
対象：2018年採用の新人78名中70名のうち、専従教育担当看護師長が新人の看護実践場面同行後、FBした内容97件

分析方法：フィードバック内容を実践できていた点、強化すべき点に分けてコード化する。その後、厚生労働省が示す臨床実践能力の構造の看護技術を支える要素である「医療安全の確保」「患者及び家族への説明と助言」「的確な看護判断と適切な看護技術の提供」の三要素、さらに三要素の各詳細項目をコード分類し、コード件数は単純集計する。

## 倫理的配慮

研究の趣旨と方法を文書で説明し新人看護職員には拒否機会を保障した。個人が特定できる内容は記載せず、データ管理は十分配慮する。本研究は研究者所属の大学倫理委員会の承認後実施した。

## 臨床実践能力の構造



## 結果・考察

コード数は256件

看護技術を支える要素		実践できていた点	件数	今後強化すべき点	件数
1 医療安全の確保	安全確保対策の適応と判断の実施	与薬前患者に名乗ってもらいワルネーム確認	12	点滴、内服薬などの事前の声出し指差し確認	8
		点滴、内服薬などの事前の声出し指差し確認	5	与薬前患者に名乗ってもらいワルネーム確認	3
		転倒リスクのある患者への観察、ケア（適切な履物の位置確認も含む）	5	転倒リスクのある患者への観察、ケア（適切な履物の位置確認も含む）	3
		チューブ、ドレーン類の安全管理・管理	4	チューブ、ドレーン類の安全管理、安全な物品配置での看護ケア	2
		患者の安全を第一に優先度を考えた対応	2	与薬前の7Rの確認	1
	適切な感染管理に基づいた感染防止	与薬前の7Rの確認	1	確実なリストバンド装着	1
		患者と共に点眼部位の確認	1		
		看護ケア前後の適切なタイミングでの手指消毒	14	看護ケア前後の適切なタイミングでの手指消毒	31
		適切な個人防護具の使用	2	点滴接続部は面を変えてゴシゴシと酒精での消毒	5
		点滴接続部の確実な酒精での消毒	1	適切な個人防護具の使用（PPE着脱手順、確実なマスク装着など）	3
2 患者及び家族への説明と助言	科学的根拠（知識）と観察に基づいた看護技術の必要性の判断	医療器具の消毒	1	使用済汚染物の適切な取り扱い・片付け	2
		患者の安全を第一に優先度を考えた対応	2	酒精の清潔な取り扱い	1
		患者と共に点眼部位の確認	1		
		看護ケア前後の適切なタイミングでの手指消毒	14		
		適切な個人防護具の使用	2		
	患者の特性や状況に応じた看護技術の選択と応用	ケア実施前の報告・連絡・相談、ケア実施後のタイムリーな報告	19	曖昧、抽象的、小さな声で先輩に報告するのではなく、正確に内容を報告	4
		薬剤投与前のダブルチェックや手術開始前の多職種との安全確認	9	前勤務者との引継ぎを確実に実施する必要性	1
		患者情報を1つ1つ確認・入力し、検査室に引き継ぐ準備	1	曖昧な場合早期に看護師に報告	1
		患者の理解状況に合わせたケアの必要性、ケア内容をわかりやすく説明	29	患者への十分な声掛け、説明、適切な言葉遣い、態度	5
		患者の自立を支援しながら看護技術を提供	2		
3 的確な看護判断と適切な看護技術の提供	看護ケアの必要性の判断のもととなる患者の観察、情報収集、症状アセスメント	患者の理解状況に合わせたケアの必要性、ケア内容をわかりやすく説明	29	患者への十分な声掛け、説明、適切な言葉遣い、態度	5
		患者の自立を支援しながら看護技術を提供	2		
		患者状況を踏まえた関わりを先輩と振り返り	1		
		患者の安全を考慮した看護技術の提供	2	患者への負担が懸念される関り	1
		患者の自立を支援しながら看護技術を提供	2		
	看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価	看護ケアの必要性の判断のもととなる患者の観察、情報収集、症状アセスメント	20	手順に沿った正確な看護技術の提供	5
		看護ケアの必要性の判断のもととなる患者の観察、情報収集、症状アセスメント	20	手順に沿った正確な看護技術の提供	5
		手順に沿った正確な看護技術の提供	7	患者観察、情報収集を行い、看護ケアの必要性を判断	3
		患者の生活空間を配慮した快適な療養環境の提供	4	プライバシーを配慮した看護ケア	3
		プライバシーを配慮した看護ケア	3	患者の生活空間を配慮した看護ケア	2
患者の特性や状況に応じた看護技術の選択と応用	体位調整時の皮膚損傷のリスクを予測し対応	2	必要な物品の準備と環境を整えたらうで看護技術を提供	2	
	周囲の状況を見て自己の役割を認識した行動	2	体位変換時シーツのしわを正した上で皮膚損傷のリスクを予防	1	
	看護ケアの詳細に関してアセスメントを先輩に相談	1			
	患者の身体的、精神的特性、状況を踏まえたコミュニケーション	14			
	患者の自立を支援しながら看護技術を提供	2			
看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価	患者の身体的、精神的特性、状況を踏まえたコミュニケーション	14			
	患者の自立を支援しながら看護技術を提供	2			
	患者状況を踏まえた関わりを先輩と振り返り	1			
	患者の安全を考慮した看護技術の提供	2	患者への負担が懸念される関り	1	
	患者の自立を支援しながら看護技術を提供	2			
看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価	患者の安全を考慮した看護技術の提供	2	患者への負担が懸念される関り	1	
	患者の自立を支援しながら看護技術を提供	2			
	実施した看護ケアを他部署に引き継ぎ	1			
看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価	看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価	2			
看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価	実施した看護ケアを他部署に引き継ぎ	1			
看護計画の立案と実施した看護ケアの正確な記録と評価	入院患者の情報収集	1			

特に強化すべき内容：実践できていた点と同様の項目ではあるが、確認行為、感染予防である医療安全の視点

引き続き

新人看護職員、部署指導者への肯定的な内容と課題を直接フィードバックするメリットを重視  
部署と連携しながら新人の実践場面での成長を継続的に支援

## 今後

医療安全の視点を踏まえ実践場面における新人の教育的支援の継続、また院内研修での教育ニーズへの活用が必要と考える。

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体等はありません。